

活動： 立論の三本柱に対して、NT・NI・NU でアタックとディフェンスを考え、試合の流れを学ぼう。

【この学習を通して身につけたいこと】

①論理的思考力を養う目的は

課題研究において、客観的で論理的に研究を進めていける素地をつくること。

②ディベートをすること、議論することは

相手の意見「肯定」/「否定」について文句をつけることではない。それは相手の価値観なので、それ自体を否定したり、人間性を否定することはしない。重要なのは、そう考えるに至った道筋について批判的にみて、疑問を投げかけ、相手とともに考えを深めていくことである。

③国際性とは

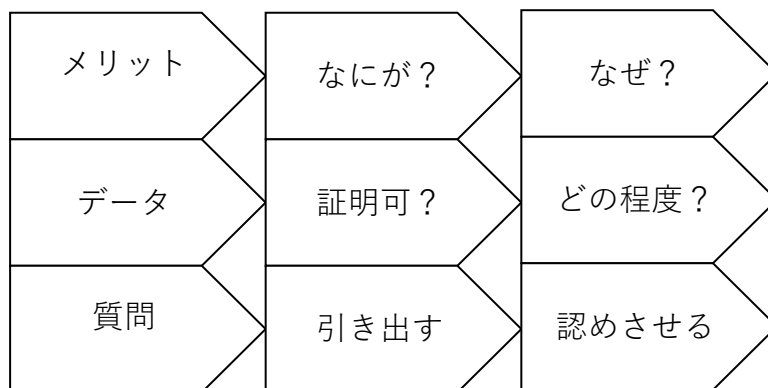
英語が使えること以前に、客観的で論理的なものの見方ができることである。

<復習>

I 3つの視点で考えよう！

1. Not true 「～そうではない」「～いつもそうではない」「～それは疑わしい」
相手の根拠の矛盾点や問題点を指摘して、その主張は成り立たないと主張
情報や証拠の不足を指摘して、相手の主張は成り立たないと主張
別の根拠を持ち出して、相手の主張は誤りであると主張
2. Not important 「～それは重要ではない」「～それは深刻ではない」「～影響が小さい」
相手の主張は認めるが、その重要性がとるに足らないと主張
3. Not unique 「～現状の改良で同じ効果が得られる」「～現状の改良で対応できる」から理由と
言い難い
相手の主張は認めるが、現状の改良で同じ効果が得られると主張

II 質問の視点を活用しよう！ : 相手の立論（意見・理由・具体例）に対して質問する視点



III 相手の立論に対する理由と具体例を加えたアタック・ディフェンスにしよう！

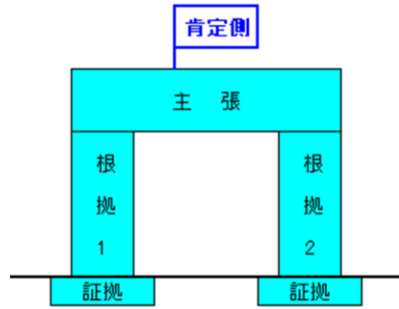
- EX. 「あなたは...と仰いましたが、そうではありません。なぜならば...」
 「あなたは...と仰いましたが、それは重要ではありません。なぜならば...」
 「あなたは...と仰いましたが、それは現状の改良で対応できます。なぜならば...」

ディベート 試合の基本

《ディベートの基本》

1. 主張の基本

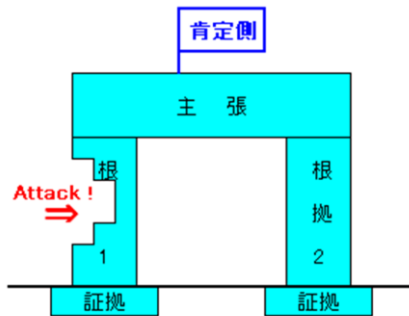
主張するには根拠がある。
根拠は証拠があれば強くなる。



2. 反論の基本

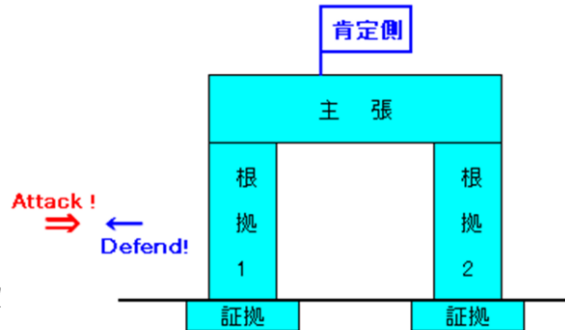
(1) 相手の主張を崩す

主張するには根拠がある。
→根拠を崩せば相手は主張ができなくなる。
例：そんなことはないよ！



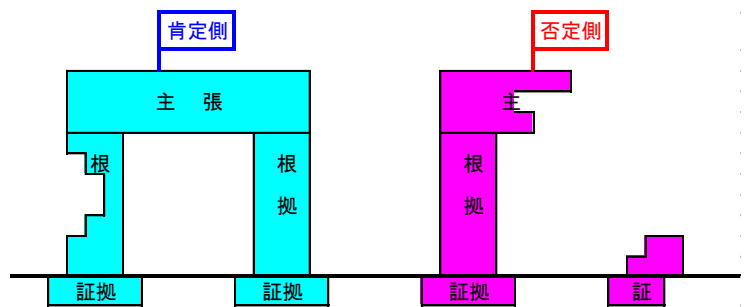
(2) こちらの主張を守る

主張するには根拠がある。
→根拠を守れば主張ができる。
例：そんなことはないよ！≠そんなことあるよ!!



(3) 双方の根拠を比較する

主張するには根拠がある。
→こちらの根拠が大きければ主張が通る。



《立論》・・・主張をするときには技術がいる。立論を作るときは型がある。

アタック以下も同じ。(※「型」は重要な技術の集約である。)

《アタック》・・・「ミサイル発射!!」

1. アタックの種類

- A そんなことはないよ(Not True)!!
- B 大したことはないよ(Not Important)!!
- C 今と変わらないよ(Not Unique)!!

2. アタックの場所

立論は3つの要素から出来ている。したがってアタックする場所はこの3つ。

- ・現状説明(Present Situation)
- ・発生過程・効果(Effect)
- ・重要性(Importance)

《ディフェンス》・・・「敵のミサイルを迎え撃て!!」

1. ディフェンスの種類：ディフェンスはアタックへの対応だから・・・

【アタック】

【ディフェンス】

- | | | |
|------------------------------|-----|--------------|
| A そんなことはないよ(Not True)!! | ⇒ ← | a そんなことあるよ!! |
| B 大したことはないよ(Not Important)!! | ⇒ ← | b 大したことあるよ!! |
| C 今と変わらないよ(Not Unique)!! | ⇒ ← | c 今と変わるよ!! |

2. ディフェンスの場所：アタックしてくるのはこの3ヶ所だから守るのもこの3ヶ所

- ・現状説明(Present Situation)
- ・発生過程・効果(Effect)
- ・重要性(Importance)